

I 実践

1 研究主題

思いやりの気持ちを持ち、互いを認め助け合う仲間づくり

2 主題設定の理由

本校では教育目標として、「一人一人の能力をのばし、心身ともにたくましい人間性豊かな児童の育成に努める」とあり、かしこく・なかよく・たくましくを三つの柱とし全教育活動を通して目標の実現を目指している。児童の知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性の育成を図るため、発達段階に応じて、人権の意義・内容や重要性について理解できるよう、各教科・道徳・特別活動の指導計画の中に人権教育を位置づけ、指導の充実を図っている。

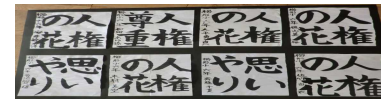
発達段階に応じた人権教育をすることで、人権への理解と実践力を深めていけると考えた。そこから児童が自分を大切に、また他者への思いやりの気持ちを持ち、互いに認め助け合う仲間づくりができたらいという思いから本主題を設定した。

3 実践内容

(1) 人権週間の実践

ア 人権書道

夏休みの取り組みとし5、6年生が取り組んだ。事前に書写の時間に人権とは何かを児童に話し、「人権の花」や「思いやり」という文字に気持ちを込めて書くことができた。



イ 人権メッセージ

道徳の時間等を活用しながら、全学年が取り組んだ。人権について理解が曖昧だった児童も担任から人権について話を聞くことで理解を深めることができた。今回は各学級で取り組んだ人権メッセージの中から、素晴らしい作品を廊下に掲示し、多くの児童に読んでもらえるようにした。低学年から高学年の多くの児童が足をとめ友達作品を読む姿が見られた。また学習公開では、保護者の読む姿も見られ、家庭でも人権について考えるきっかけになったことと思う。

毎年、人権メッセージは代表児童の作品を県に出展しているのだが、今回3年生の児童の作品が優秀賞に選ばれることとなり、児童も人権についてしっかりと考えるよい機会となった。

優秀作品「いじめってかっこ悪いな。自分より弱い人にいじわるなことを言ったり、自分より小さい人にぼう力をふったりして…かっこ悪いよ。もしもいじめられている人がいたら、かっこ悪いよって言ってやろうよ。もしいじめられたら、やめてと言う勇気をもとう。言い返せる勇気をもとうよ。」多くの児童の心に響くメッセージだった。



ウ 人権教室

全校で朝のドリルの時間にビデオ視聴を行った。今回は発達段階に応じた内容として、低学年と高学年に分けてビデオ放送を行った。どちらも共通して「いじめ」に関する内容ではあるが、最近では携帯電話を持っている児童も多いため、高学年は携帯電話でのいじめの内容について放送を行った。視聴後感想文を書き、各学級で人権教室を行った。



(2) 人権教育の目標を基盤にした教科・特活指導

ア 豊かな心を育てる読み聞かせ

・朝の読み聞かせ

図書の時間では、司書が読み聞かせを行った。また PTA ボランティアの方が絵本の朗読を行い、児童もよく話を聞くことができた。物語を通して登場人物の気持ちを考えるなど、心を耕す活動となった。

イ 生活科での「人」との関わり

・なかよしフェスタ（1・2学年）

2年生が1年生を招待し、空気てっぽうや、紙魚釣りなどのおもちゃを作成し、交流学习会を行った。一年生に優しくやり方を教えてあげたり、一年生も話をよく聞いたりと交流を深めることができた。来年度も実施の予定である。



ウ 総合的な学習の時間

・総合的な学習の時間発表会

3学期は3～6年生が、一つ下の学年に向けて学習の成果を発表する機会を設ける予定である。

エ ボランティア活動

・あいさつ運動

ボランティア委員会と運営委員会の児童を中心に周辺学校と地域住民に呼びかけ、あいさつの良さを訴えた。登校時間に校内外で「あいさつ 声かけ運動」を行い、元気な気持ちの良い朝のあいさつを交わすことができた。

・愛校作業

校舎の清掃活動を通して、「気づき・考え・実行する」ことが身に付くように各学年ごとに計画を立て取り組んだ。

(3) その他

ア なかよしタイム

なかよしタイムを設け、業間休みに異学年交流を行っている。1～6年生の縦割り集団を編成し、班長を中心にそれぞれの班で計画した遊びを、年3回行っている。上級生は、下級生の面倒を見て、また、下級生は教えてくれる上級生に親しみをもって接することができ、楽しく活動することができた。

イ 「十王地区敬老会」への参加（3学年）

お年寄りへの感謝といたわりの気持ちをもつことができた。



4 成果

全教育活動を通して人権教育を行うことができた。人権メッセージにおいては、人権コーナーを設けることで、児童だけでなく職員も人権に関する理解をより深めることができた。メッセージを読んだ児童のつぶやきから、「みんな人権についてしっかりとした考えをもっていたんだ。」という声を聞き、他者の意見を読むことで気づきをもてたことは素晴らしいと感じた。人権啓発において効果的であったと考える。

II 今後の課題

児童一人一人が互いを認め、助け合う環境作りを今後も継続して行う。各学級に人権コーナーを設けるなどし、児童の心の教育を行えるとよい。指導する教師も人権の理解が必要であるため、県の条例をもとに職員研修を行ったが、さらに職員の意識改革が必要と感じた。今後も教師の人権に対する理解、豊かな人間性を身につける研修等を充実させ人権教育に対する指導力の向上を図っていけるとよい。